

第 10 回 銚田・行方・潮来市ごみ処理広域化総合検討委員会

1. 開催日時 平成 26 年 8 月 28 日（木）午後 2 時～午後 3 時 40 分

2. 開催場所 行方市役所北浦庁舎 2 階第 1 会議室

3. 出席者 委員 17 名、事務局 3 名、コンサルタント 1 名

4. 検討委員会での協議

議題 1. 広域処理時のごみ出しのあり方について

議題 2. その他

第 10 回協議では、上記議題のそれぞれの内容について、事務局より委員に対して説明し、協議・検討を行いました。各議題の内容と協議・検討結果の決定事項について以下に示します。

議題 1 広域処理時のごみ出しのあり方について

3 市では、今後人口減少と高齢化が急速に進むことが予測されるため、これまで以上にコストに配慮した合理的なごみ処理事業を展開していかなければなりません。

第 8 回検討委員会から継続して協議中の「びん・缶・ペットボトルのごみ出し方法」については、次の(1)・(2)の事項を考慮して、びん・缶・ペットボトルの混合収集を提案しました。

(1) 3 市地域において、人口減少と高齢化の進行（特に高齢者のみの世帯）が進むため、特に高齢者が家の中からごみ出しをしやすいしくみを構築する必要があること。

(2) 新規リサイクル施設での処理状況を考慮すると、びん・缶・ペットボトルは混合収集した方が適切と判断されたこと。

ケース 1	ラインが 1 本：びん・缶・ペットボトルを 1 本のラインで選別して処理 (この場合、びん・缶・ペットボトルは混合収集して一括搬入となります。)
ケース 2	ラインが複数：びん・缶・ペットボトルを別々のラインで処理 (この場合、びん・缶・ペットボトルは別々に収集・搬入となります。)

びん・缶・ペットボトルを選別処理する設備について上記２ケースのコスト比較をしたところ、機器の設置・維持管理費に大きな差はないことがわかりました。これは、処理ラインの本数が異なるケース１・ケース２いずれの場合においても構成する機器は同様であり、処理ラインの延長にも大きな差を生じることはなく、基本的に同じとなるためです。

しかし、選別処理においては、処理ラインごとに人員を配置する必要があることから、ケース１よりもケース２の方が、人件費は多くなると予想されます。

こうしたことから、両者のコストの差は、処理ラインの本数ということになりますので、新規リサイクル施設でのびん・缶・ペットボトルの処理方式は、１本のラインでの処理がコストダウンのためにも有効と考えます。この場合、びん・缶・ペットボトルは区分して収集する必要はなく、混合収集することで対応可能です。

事務局側の提案に対して、委員側からびん・缶・ペットボトルの混合収集について多くの意見が出され、今回の検討委員会で結論を出すことができなかったため、今後も引き続き検討を行います。

議題２ その他

次回の検討委員会第１１回協議は、平成２６年１０月１０日に実施することを確認しました。

以上